

日本製鉄グループ内で発生した3件と他社災害2件の災害を情報共有します。
類似災害防止に活用下さい。

<日本製鉄グループ災害の概要>

1	10/3	台湾日鐵不銹鋼精密鋼板股份有限公司
	・被災者	39歳 製造部
	・休業見込	14日
	・傷病名	右足首捻挫
	・概要	歩行中、側溝グレーチングの隙間に右足が掛かり、右足を捻挫した。
2	10月6日	日鉄テックスエンジ(株)
	・被災者	66歳 (株)タカフジ
	・休業見込	未定
	・傷病名	左手第5指粉碎骨折、左手第4指製創
	・概要	配線切断作業中、開先加工機本体と回転部との間で左手小指を挟んだ。
3	10月8日	日鉄環境エネルギーソリューション株式会社
	・被災者	45歳 広島中央事務所 操業交代班
	・休業見込	2日
	・傷病名	左示指(人差し指)基節骨及び中手骨骨折
	・概要	2号炉の出湯口が詰まりかけた為、突き作業を実施。リング状の突き棒を力任せに突いている最中に、突き棒とノズル挿入口との間で左手人差し指の付根部分を挟み負傷。
4	10月18日	JFE東日本京浜
	・被災者	48歳 製鉄部
	・休業見込	-
	・傷病名	未確認(死亡)
	・概要	床清掃作業中に、尺角上に3段に挟まれた転炉炉口金物座が倒れ、床との間に挟まれた。
5	10月25日	(株)神戸製鋼所 加古川製鉄所
	・被災者	65歳 設備技術室
	・休業見込	未定
	・傷病名	右上腕部、左大腿骨頸部、肋骨、背骨等の骨折
	・概要	設備解体範囲の現場確認中に、腐食したデッキを踏み抜き転落した。(推測)

休業災害速報(社員)

発生事業所	本社工場		発生日時	2022年10月3日(月) 20時00分頃		
発生場所	安全通路上		作業区分	定常作業		
被災者	所属	製造部	役職	技術員(一般)	勤続年数	1年7ヶ月
			年齢	39	作業経験	1年7ヶ月
	氏名	A 氏	性別	男・女	(構内経験)	(1年7ヶ月)
傷病名	右足首捻挫			休業見込み日数	14日	
災害の概要	歩行中、側溝グレーチングの隙間に右足が掛かり、足首を捻挫した。					

災害状況	○10月3日(月)
	20:00頃 被災者Aは、安全通路を歩行中、側溝グレーチングの隙間に右足が掛かり、足首を捻挫した。

(発生状況の図、写真など)



写真1. 安全通路上の側溝グレーチング



写真2. 右足首を捻挫

休業災害速報(協力会社)

発生事業所	日鉄テックスエンジ(株)		発生日時	2022年 10月 6日(木) 14時48分		
発生場所	IPP 9号発電設備		作業区分	建設工事		
被災者	所属	日鉄テックスエンジ(株)	役職	一般	勤続年数	42年 5ヶ月
		発電整備Gr/(株)タカフジ	年齢	66歳	作業経験	42年 5ヶ月
	氏名	A 氏	性別	男	(構内経験)	(20年 0ヶ月)
傷病名	左手第5指粉碎骨折、左手第4指裂創			休業見込み	未定	

災害の概要 **配管切断作業中、開先加工機本体と回転部との間で左手小指を挟んだ。**

災害状況	8:00	被災者Aを含む3名は、朝礼後No.7高圧給水加熱器入側配管切断作業のTBM、KYを実施した。
	10:30	被災者Aは開先加工機にて加熱器入側配管の切断作業を開始した。
		※被災者Aの配管切断加工中の作業内容
		①開先加工機本体の削り出し量調整ピン操作 ②研削バイトへの潤滑スプレー吹き付け(1回/周)
	12:00	昼食
	13:00	被災者Aは加熱器入側配管の切断作業を再開した。
	14:48	被災者Aは、加熱器入側配管の裏にある固定側調整ピンを確認しようと歩き出したところ、安全帯ロープが緊張し体勢を崩した。この時開先加工機本体に左手をついたため、回転部と加工機固定部との間で左指が挟まれた。
		(移動する際、安全帯ロープの掛け替えを失念していたため、安全帯ロープが緊張した)
	14:50	救急車を要請した。



図1. 状況写真

- 【配管寸法】 外径: φ508mm
厚み: 58mm
- 【開先加工機仕様】 回転数: 34rpm(無負荷)
重量: 83Kg
本体外径: 688mm

※被災者Aは切創防止手袋の上に皮手を装着していた。

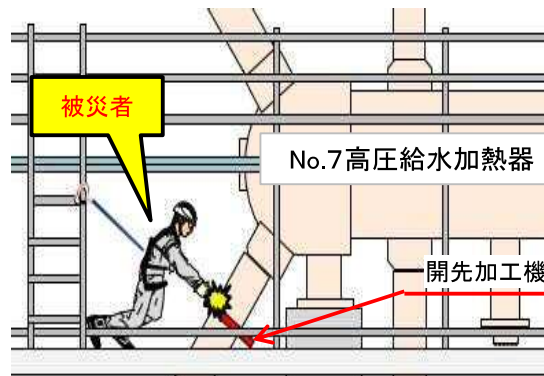


図2. 側面図

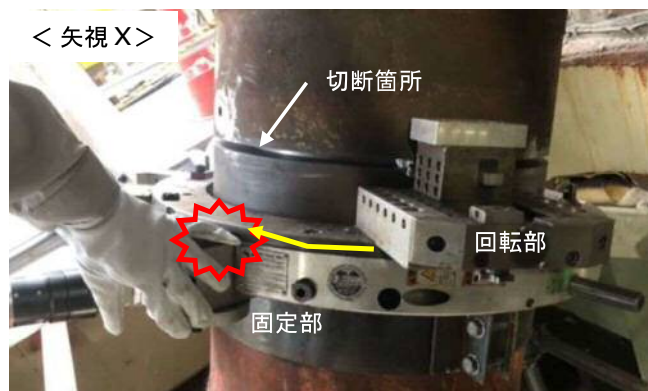
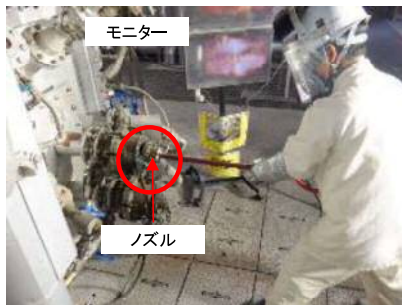


図3. 状況詳細写真

—不休業災害速報— 休業災害速報

発生日時	2022年 10月 8日(土) 18時40分頃			
発生場所	広島中央事業所 2号炉 前炉			
被災者	所属	広島中央事業所 操業交代班	役職 : 一般 勤続 : 0年 9ヶ月	
	氏名	A氏	年齢 : 45才 経験 : 0年 9ヶ月	
傷病名	左示指(左人差し指) 基節骨及び中手骨骨折	休業見込み	なし ⇒ 2日	
被災概要	2号炉の出湯口が詰まりかけた為、突き作業を実施。リング状の突き棒を力任せに突いている最中に、突き棒と突きノズル挿入口との間で左手人差し指の付け根部分を挟み、負傷。			
発 生 状 況	10月8日(土)			
	18:30	Aは、2号炉出湯口が詰まりかけていたので突き作業を開始。		
		突き作業は、モニターに映した出湯口を見ながらの作業となる。		
		甲番帯での突き作業回数 は、1号炉:2回、2号炉:3回、3号炉:2回。 2号炉の3回目で被災。		
	18:40	炉底奥のコースを手前へ持ってくる為に、炉底奥を狙ってリングの持ち手付け根付近まで挿入し、激しく突き棒を前後させていた時にモニター上のコースに集中するあまり、無意識に持ち手リングの前側を掴んでしまい、気付かずに突き棒と突きノズル挿入口との間で左手人差し指の付け根を挟んでしまった。【写真②】		
	18:50	Aより操業班長へ左手を負傷した事を報告。(直ぐに保冷剤で冷却)		
	19:00	操業班長は、操業技術主任へ報告し状況を確認。裂傷は無いが腫れている為、受診が必要と判断。東広島医療センターへ受診を相談したところ、待ち時間を要す為、井野口病院を勧められる。		
		井野口病院からは、受診可能との返答。		
	20:00	操業技術主任が事業所到着後、操業技術主任運転で病院へ向かう。		
	20:15	井野口病院へ到着後、レントゲン撮影を行い、診察した当直医からは、左示指基節骨及び左示指中手骨の2箇所を骨折との診断。		
		担当医不在の為、連休明けの10月11日(火)に再受診し、その際に手術(日帰り手術)を行うとの説明を受ける。		
		簡易的な添え木にて固定後、痛み止めを処方。当直医より車や仕事に対する制限の指示はなし。		
	21:50	事業所へ帰所し、状況報告後、帰宅。		
		翌10月9日は操業交代班丙番勤務に出勤し、軽作業に従事。		
		10月11日(火)		
		Aは、午前中より井野口病院の専門医(担当医)を受診。CT検査等の精密検査を受けた結果、左人差し指については基節骨に複数箇所の骨折(第一関節、第二関節部分及び陥没)、中手骨に骨折があることが判明。		
		本日診察した専門医からは、本日中に手術を行い、退院は 10/13(木)の見込みとの診断があった。		

・発生場所等の状況図



出湯口突き作業時の様子再現



正しい持ち方(対策後)

両手でリングの後方を待っている



誤った持ち方(今回の被災時)

左手でリングの前側をもってしまった

(様式1-1)

重大

災害報告書 (東日本製鉄所京浜地区)

(JFEスチール社員及びJFEスチールと作業・工事請負契約
しているグループ会社・一般協力会社)

速報
正式報告書

事業所、社・協、災害程度、年、件目、京浜地区の総安 (内■・外□) 事業所名 京浜

京	社	重大	22	1
災害の種類		(災害の型) 挟まれ・巻き込まれ (起因物) 炉口金物座		
作業名		転炉3F 床清掃作業		
概要 (40字以内)		床清掃作業中に、尺角上に3段に積まれた転炉炉口金物座が倒れ、床との間に挟まれた		
発生日時		令和04年10月18日(火曜日) 11時58分(発見)	発生場所 転炉建屋3F	
被災者	所属・監督部署	製鋼部 製鋼工場(室)		特記事項(被災者の心身状況等) なし
	協力会社	(元請)	(2次) (3次) (4次)	
	フリガナ 氏名	生年月日 X氏 (48才2カ月)	現企業勤続 1年7カ月 現職種経験 1年2カ月	
傷病名		未確認(死亡) (休業見込 日)		
グループの構成 (姓を記入)				
作業指揮者		(氏名コード) 生年月日 年 月 日 現企業勤続 29年7カ月 Aリーダー (41才1カ月) 現職種経験 8年9カ月		
災害状況 (作業開始から災害発生までの経緯を簡条書きする)		現認者氏名 無し		
07:30 始業ミーティング実施、フェイスチェック異常なし				
07:45 被災者は転炉3Fの床清掃段取りを開始				
09:00 被災者は清掃作業を開始(1人作業)				
11:45 リーダーは、被災者にトランシーバーで連絡したが、応答がないので 転炉3Fへ確認に向かう				
11:58 リーダーは、被災者が転炉炉口金物座と床との間に挟まっているのを発見した				
12:04 救急車を要請				
12:25 被災者を救出、病院へ搬送				
14:17 搬送先の病院で死亡を確認				

状況略図

(原則として立体図とし、必要に応じて平面図、側面図、断面図、部分拡大等でわかりやすくすること)

被災場所

被災場所: 転炉建屋3F エレベーター前

被災状況 ※被災場所の床面は、ダストが堆積した状態

～被災前の状況(推定)～ (平面図)

～被災時の状況～

何らかの要因で金物座が倒れ、床と金物座の間に挟まれた。

(A-A断面)

保護具装着状況

【保護具】

- ・ヘルメット
- ・ゴーグル
- ・火防着
- ・防塵マスク
- ・皮手袋
- ・安全靴

※転炉炉口金物座
転炉炉口とその上に載せる炉口金物の間に
入れる座面。8分割にされた扇状の鋳物。

休業災害速報 (社員)

(株)神戸製鋼所
安全・環境部

発生事業所	加古川製鉄所	発生日時	'2022年 10月25日(火) 13時頃 (推定)		
発生場所	1高炉 リングスリットワッシャー (RSW) デッキ (15m床)				
元方部署	設備技術室				
協力会社	(元請)	(2次)	(3次)	(4次)	
被災者	A氏 年齢：65才 勤続：47年 経験：47年				
負傷内容	右上腕部、左大腿骨頸部、肋骨、背骨等の骨折			休業見込み	未定

概要：設備解体範囲の現場確認中に、腐食したデッキを踏み抜き転落した（推定）。

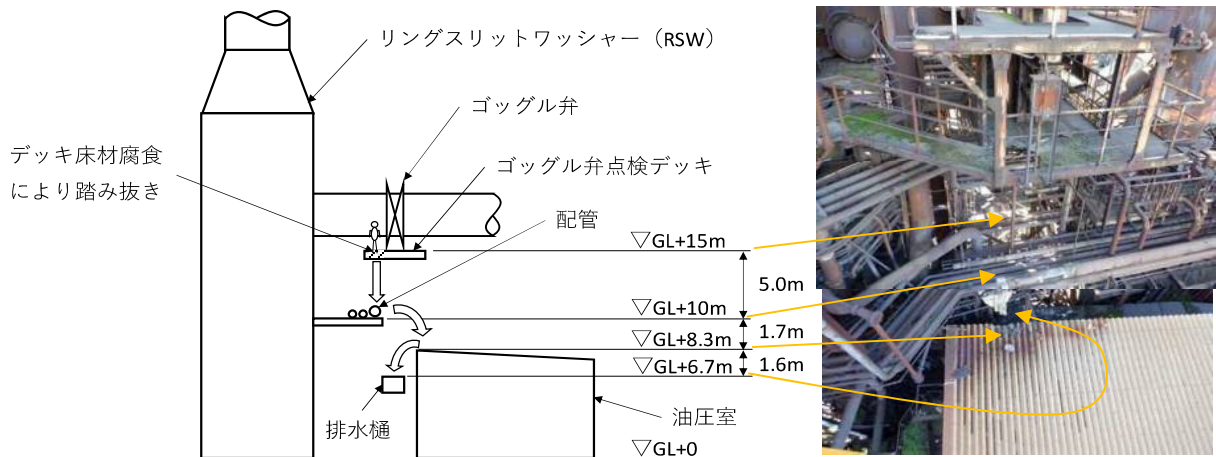
13時頃：1高炉 RSWデッキ解体工事の現場確認のため、1人で現地に向かう。

解体範囲の確認のため15m床を歩行中に、腐食したチェッカープレート（デッキ）を踏み抜き転落。

GL10mの配管帯に接触したのち、GL8.3mの電気室屋根に倒れ、GL6.7m上の排水樋に落下。

落下の衝撃で意識を失った。（推定）

<災害発生状況図>



コメント欄
